

大阪府立交野支援学校 四條畷校
R2 学校教育自己診断アンケート 分析結果

配付：12月2日 回収締め切り：12月16日

●生徒用 回答数113（中：34 高：69）回収率71%（R1回収率66%）

（「はい、いいえ、わからない」での回答。Q7は今年度交流ができていないので省く。 Q9・Q10は高等部のみ。）

Q1・2・5・6については「はい」が7割を超え、「いいえ」は5%以下。しかしながら、「わからない」「未記入」の合計は最も少ないQ1でも17%、Q5では3割弱になっている。

Q3・4については、「わからない」「未記入」の合計が更に増え、Q3で3割、Q4では4割弱になる。また、Q8～10については、さらに顕著で、Q9・10では4割、Q8では5割が「わからない」「未記入」である。

設問ごとに「わからない」「未記入」の割合に差があることから、質問の意図を理解して回答しづらい設問であるという見立てと、「はい」と肯定的評価はできないが、「いいえ」とまでは言えないと判断した生徒が、「わからない（＝評価しにくい・評価できない）」もしくは「未記入」にしたとも考えられる。

そう考えたときの、Q4の4割弱、Q8～10の4～5割の「わからない」「未記入」は大きな課題と言える。Q4は「生徒の人権、安全安心な学校生活」を問う設問、Q8・10は進路・キャリア教育に関する設問であり、教員の自己評価においては、肯定的評価が9割を超える。教員の思い、取り組み実践が生徒に響いていない、生徒が実感できていない可能性もあり、生徒指導、キャリア発達を促す教育活動についての再点検の必要性を感じる。

Q9（主権者教育）は、「いいえ」が2割と他の設問に比して極めて否定的評価が高い。（「わからない」「未記入」合計も4割。）R4年度からの民法の一部改正を視野に、主権者教育の位置づけについても校内で議論が必要である。

第2回学校運営協議会にて委員から指摘のあった、「生徒が答えづらい」「質問内容がわかりにくい」可能性もあり、各設問で聞きたいポイント（設問趣旨）を変えずに、「わからない」「未記入」の割合を減らすためにはどのように質問すべきかについて検討していく。

学部間で有意なポイント差のある項目は、Q4「生徒の人権、安全安心な学校生活」・Q8「進路学習」であった。中学部がおおよそ20ポイント低かった。特に、進路・キャリア教育については、学校経営計画にも「中・高で一貫したキャリア発達を促す学習、進路に関する教育の充実を図る」としており、キャリア教育の視点を持って、学習の系統性を意識した取り組みを引き続き進めるとともに、それぞれの学習における目標（つけたい力）を生徒が意識できるように、ねらいを伝えていくことが必要である。

課題点

Q4「生徒の人権、安全安心な学校生活」

Q8「進路学習」

Q9「主権者教育」

Q10「自立に向けての意欲」

●保護者用 回答数114 (中:35 高:70) 回収率72% (R1 回収率66%)

(「A あてはまる、B ややあてはまる、C あまりあてはまらない、D あてはまらない、E わからない」での回答。)

全24項目中、Q21(施設・設備面での満足)及びQ24(HPは役に立っている)以外は、否定的評価(C+D)が1割未満。(21項目でD評価は1%未満。)13項目で肯定的評価(A+B)が9割を超えている。(6項目で8割以上。)学校に対して、一定以上の評価を得ていると考えられる。

Q6(個別の教育支援計画・個別の指導計画)やQ7(学校からの日々の情報提供)、Q17(保護者の相談に適切に応じる)、Q19(緊急時の対応のお知らせ)、Q20(大規模災害時の協力体制)といった、学校と家庭との情報共有、連携についての項目の肯定的評価が9割を超えており、A評価も6割程度になっている。

Q5(自立と社会参加に向けての教育の推進)、Q10(教職員の指導・支援の専門性)、Q11(教職員の人権尊重の意識)については、肯定的評価8割程度である。教員の自己評価における同種の設問(教員用のQ4、Q5、Q6、Q8)に対する肯定的評価が9割を超えていることから、保護者の受け止めと教員の自己評価に10ポイント程度の開きがあることになる。Q5・Q10・Q11の否定的評価は1割未満であり、否定的な捉えが多いわけではないが、生徒用アンケート同様、「わからない」「未記入」が1割強あり、学校教育活動や教員の生徒への関わりが保護者にきちんと響いていない、届いていないことによるものと思われる。コロナ禍で、保護者が来校する機会が減少していることの影響もあるが、教科指導上のねらいや生徒指導上の目標、ねらい・目標に対する変化・評価について、保護者により丁寧に伝える姿勢が必要と考える。

Q12(ICT・視覚支援を活用した授業)は、肯定的評価が6割、「わからない」「未記入」が3割となっている。教員が授業においてICT機器を活用することはもちろん、「一人一台パソコンの時代」を迎えるにあたり、支援学校の生徒にとっても支援機器ともなりうる情報端末を、生徒がよりよく活用できるようになることを、学習活動において考えていく必要がある。

Q24の肯定的評価は5割で、「わからない」「未記入」が3割、つまり3割の人が学校HPを閲覧したことがないという結果。第2回学校運営協議会にて委員から指摘があったとおりであるが、最新の情報が掲載されていること、適切に更新がなされていることはもちろん、保護者・関係機関にとっての利便性(最新の月中行事予定表の掲載、必要書類のダウンロードが可能など)魅力あるHPとなるよう内容について検討していく必要がある。

☞Q21:改修要望は毎年、教育庁に伝えているが、設計が古い&支援学校仕様ではないことも否定的評価の要因と思われる。経年で見ると否定的評価は4ポイント減っている。

課題点(カッコ内の数字は否定的評価C+D+Eわからないの合計)

(教職員の専門性)

Q10「教職員の専門性」(13.1%) Q11「教職員の人権尊重の姿勢」(13.2%)

(学習活動の充実)

Q5「自立と社会参加に向けての教育」(14.0%)

Q12「ICT・視覚支援を活用した授業」(23.7%)

(安全安心、充実した学校環境)

Q21「施設・設備への満足」(39.5%)

(魅力ある発信)

Q24「HPは役に立っている」(24.6%)

●教員用 回答数75 (中:25 高:50) 回収率96% (R1回収率87%)

(「A あてはまる、B ややあてはまる、C あまりあてはまらない、D あてはまらない、E わからない」での回答。)

学校運営協議会にて委員から指摘があった回収率については、常勤教員 77 人中 75 人が回答。2 人については、アンケート期間中に病気休暇期間であったため、実質回収率は 100%。

生徒用、保護者用にて分析した、Q4 (人権を尊重した教育活動)、Q5 (進路選択のための指導・情報提供)、Q6 (将来に向けての指導)、Q8 (支援教育の専門性) についての自己評価は、いずれも 9 割が肯定的評価である。それに対し、Q10 (教員間相互の授業見学) については、5 割強の肯定的評価、34%が否定的評価、Q20 (授業や生徒対応について話ができる自由な雰囲気) については、28%が否定的評価となっている。教員相互に授業を見合う環境が整っていないことや、放課後時間等に生徒の話・授業の話をする時間のないことが、自分自身の支援教育の専門性や、生徒への指導・支援の力量について客観的指標を持ちにくい要因になっていると考えられる。生徒・保護者の認識・意識とのズレにもつながっているとみられる。コロナ禍において、例年以上の業務負担があったこと、授業見学週間の設定がなかったことの影響はあるが、研究授業、授業見学週間に変わる、授業力向上のための新たな取組み (教員がより授業について、生徒への指導・支援について話し合う機会の創出) が必要と考える。令和 3 年度学校経営計画にて示す「授業力向上チーム (仮称) による授業見学」の取組みが実現することにより、Q21 (初任者等へのサポート) の課題にも対応が可能と考える。

Q14 (准校長のリーダーシップ)、Q15 (教育理念・経営計画の明確化) の肯定的評価については、コロナ禍における教育活動・学校行事の方針を、組織として迅速に決定しながら進めてきたことの一つの現れと捉えられるが、Q16 (学校運営への教職員の意見の反映)、Q17 (適正な人事配置)、Q18 (学校運営への積極参画) といった項目に否定的評価が一定数あることを考えると、学校経営計画に示す学校としての特色をより打ち出すような新たな取組み・企画についての話し合いができなかったことの現れと受け止めなければならない。

授業・生徒の話をする時間や、新たな取組みに対する企画会議の充実については、教員の多忙感の解消、業務の平準化、会議の精選などの働き方改革の取組みによる時間の創出が不可欠である。

☞Q23: 施設・設備面での評価は例年低い。(保護者アンケート同様。) 今年度は、Q24 (ヒヤリハット報告) の項目は 9 割が肯定的評価となっており、意識の向上は見られた。

課題点 ((カッコ内の数字は否定的評価 C+D の合計)

(教員の専門性、授業力・生徒指導力の向上)

Q10「教員間相互の授業見学」(34.7%) Q20「授業・生徒の話ができる」(28.0%)

Q21「初任者等へのサポート」(37.3%)

(学校運営に対する意欲)

Q16「学校運営への教員の意見の反映」(14.6%)

Q17「適性な人事配置」(22.7%) Q18「学校運営への積極参画」(28.0%)

(安全安心、充実した学校環境)

Q23「適切な施設設備の点検・管理」(36.0%)